

世界が進むチカラになる。



景気ウォッチャー調査 (東海地区:2023年10月)

2023年11月10日

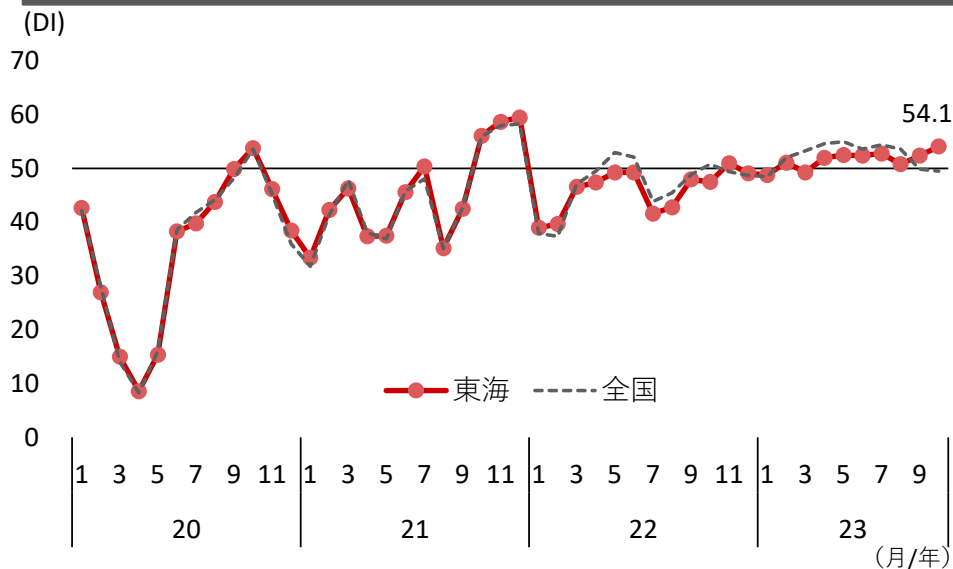
調査部 主任研究員 塚田 裕昭

2023年10月の動き(東海地区)

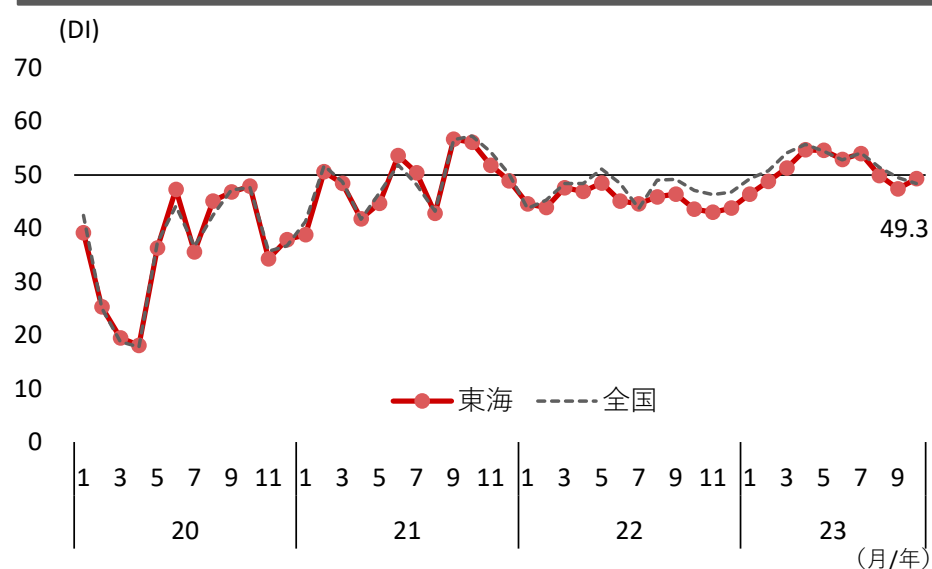
11月9日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の10月の

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差1.7ポイント上昇の54.1となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差1.9ポイント上昇の49.3となった。
- 景況感は持ち直している。先行きについては、持ち直しが期待される一方で、物価上昇や収益環境の悪化が懸念されている。

現状判断DI(季節調整値)



先行き判断DI(季節調整値)



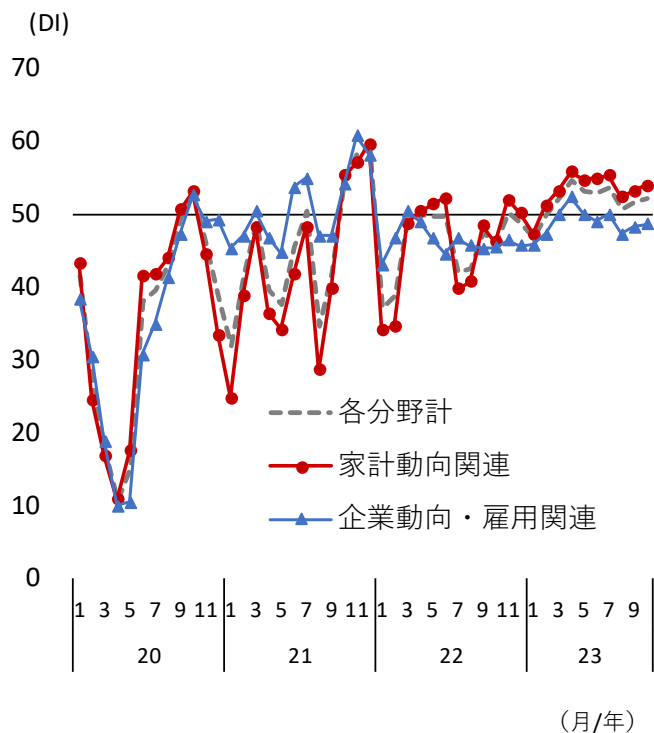
(全国の動き)

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差0.4ポイント低下の49.5となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差1.1ポイント低下の48.4となった。
- 景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。

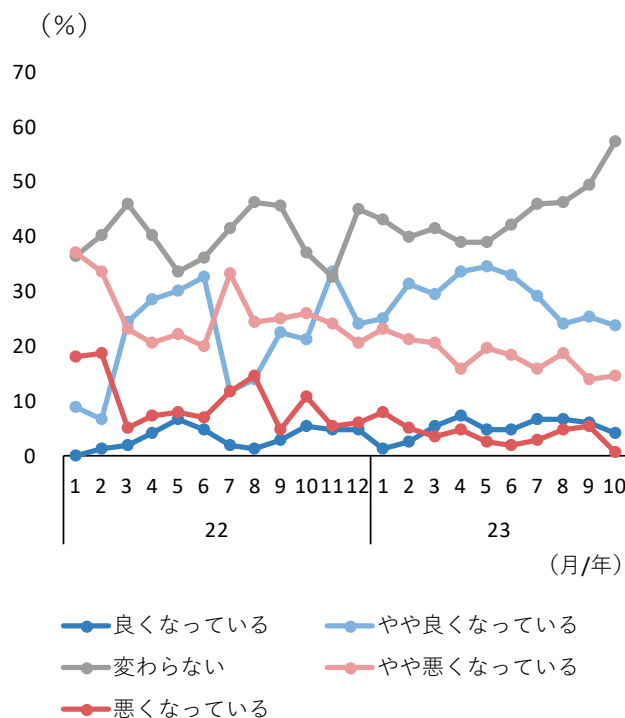
景気の現状判断(3ヵ月前との比較:原数値)

- 家計動向関連DIは、横ばいを示す50を上回っているが、企業動向・雇用関連DIは下回っている。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は低下、「変わらない」は上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下している。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は低下、「変わらない」は上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下している。

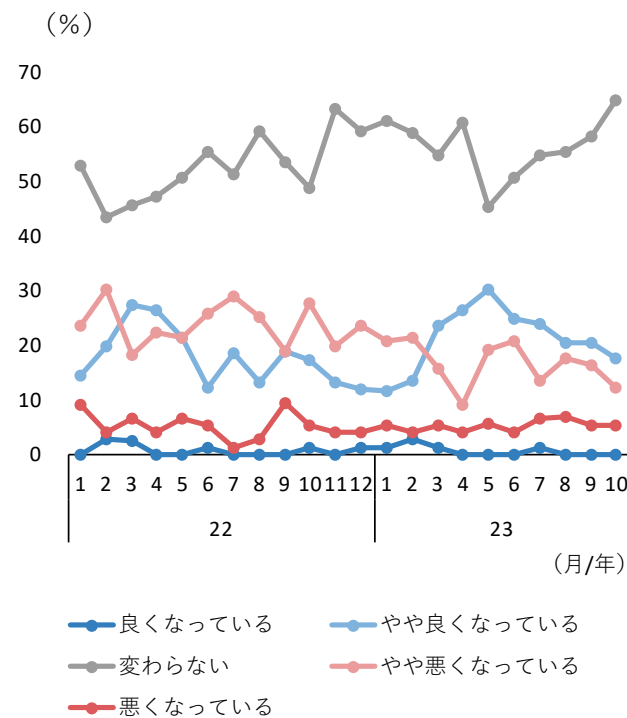
現状判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



現状判断理由の概要(家計動向関連)

- 人の流れ、インバウンド、新車供給などが増加し、景況感の改善につながっている。一方で、物価上昇が改善の制約要因となっている。

◎	コンビニ(企画担当)	・インバウンドも徐々に増加傾向にあり、ほとんどの店舗で売上が前年を上回っている。鉄道乗降人員の改善により、10%以上売上が増加している店舗も多い。
◎	旅行代理店(営業担当)	・秋の行楽シーズンである今回は、団体旅行の取扱件数が100件を超え、営業担当者はてんてこ舞いである。完全に新型コロナウイルス感染症発生前に戻っている。物価上昇ラッシュであるが、旅行代金が値上がりしても内容を抑えることはないのは、景気が良い証拠である。
○	乗用車販売店(経営者)	・車種にもよるが、以前よりは新車の供給が間に合うようになってきた。慣れの部分もあると思うが、車両に掛ける客の予算はしっかりと確保してもらえている。
□	商店街(代表者)	・販売価格が上昇しているため、消費者は購入に際してかなり慎重な様子がみられる。そのため販売量もなかなか伸びない。
□	スーパー(店員)	・商品の単価が上がっているため、販売量は最小限になっている状況である。
□	スーパー(営業企画)	・3か月前と比べて来客数、客単価共に大きな変化はみられない。日用品に対しては、価格志向を中心に節約する消費傾向が定着している様子である。
□	乗用車販売店(従業員)	・生産回復が大きな要因である。一部車種はまだ1年以上の待ちであるが、量販車種の納期が元に戻ってきたことは、客にPRする上で非常に意味がある。ただし、この数年で車の価格がかなり高くなってしまった。コンパクトカーでも300万円を超える車種があり、見積りを出すと驚く客も相当いる。予算が合わずに購入の見送りも増えている。
▲	家電量販店(フランチャイズ経営者)	・来客数が減っており、前年の9割程度である。値上げの効果で客単価は上がっているが、売上減少を補うほどではない。物価高で生活防衛意識が強くなっている。

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

現状判断理由の概要(企業動向・雇用関連)

- 自動車関連が好調である一方、半導体関連は厳しいなど、業種によって温度差がある。原材料価格や人件費の上昇による収益悪化が引き続き指摘されている。

○	アウトソーシング企業 (エリア担当)	・自動車関連製造業においては、国内販売、輸出向け共に上向きに推移している。特に国内販売数は前年超えが続き、新型車種の販売も好調で生産工程は多忙になっている。
○	職業安定所(雇用開発 担当)	・製造業などでは価格転嫁が進んで、賃上げをする企業も増えている。
□	化学工業(営業担当)	・半導体向け電子材料薬品の需要は、引き続き在庫調整等で減少している。
□	鉄鋼業(経営者)	・本来は秋需と呼ばれる需要が増える時期で他の月より10%ほど伸びるはずが、今年は逆に横ばいから5%ほど減少している。
□	輸送業(従業員)	・物流量自体は一定の水準のまま続くが、運送業界ではコスト高、人手不足や運賃値上げが進まないなど、苦しい状況が続いている。仕事はあっても苦しい状況である。
□	職業安定所(職員)	・製造業では、原材料やエネルギー価格の高騰により利益が圧迫されている。そうしたなか輸送用機械器具製造業では、半導体の供給制限緩和により生産が上向きである。食料品販売業では、一定の需要はあるものの、従業員が好条件の会社に転職し人手不足によりシフトが組みづらい状況である。建設業では、物価高によりコストが上昇し、人件費に回せず求人募集を見送っている。
□	職業安定所(職員)	・前年同月比でみた求人数は、物価高騰、賃上げによる人件費の上昇などから、製造業を中心にほとんどの業種で減少傾向が続く。一方、求職者数は緩やかな増加傾向が続いており、この状況が長期化している。
▲	金属製品製造業(経営 者)	・販売量が減少し、引き合いも減少している。販売価格の低下、原料価格の高止まりもある。
▲	人材派遣会社(営業担 当)	・求人、求職共に大きな変化はないが3か月前に比べ微減という状況のため、採用数も減少している。

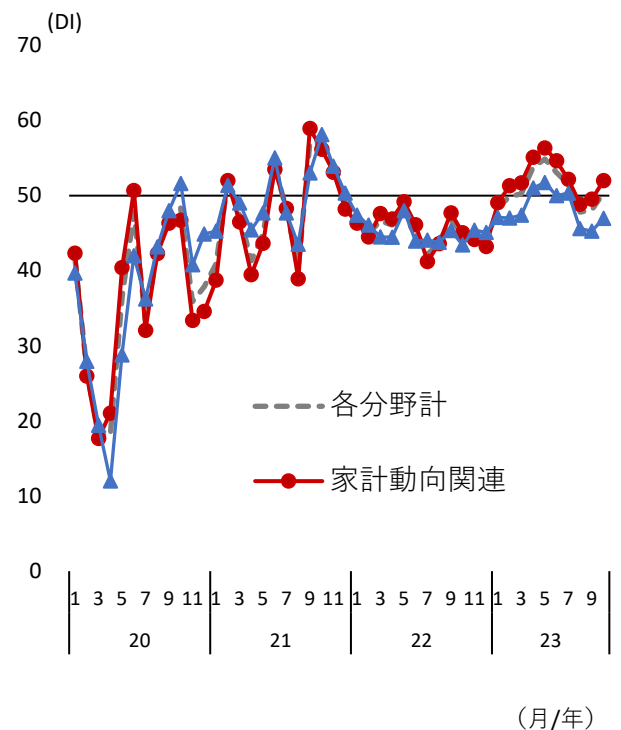
(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

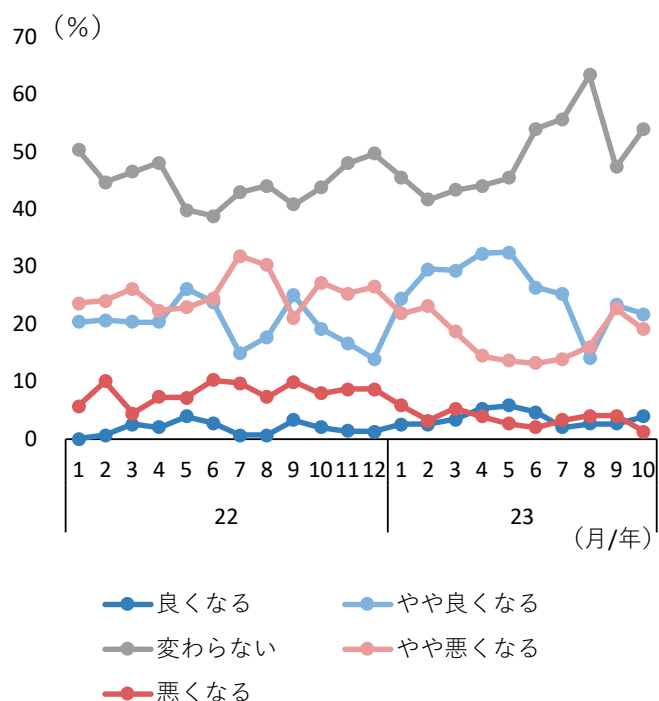
景気の先行き判断(2~3ヵ月先の見通し:原数値)

- 家計動向関連DIは、横ばいを示す50を上回った。一方、企業動向・雇用関連DIは50を下回っている。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は低下、「変わらない」は上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下している。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は上昇、「変わらない」は低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は変わらずとなった。

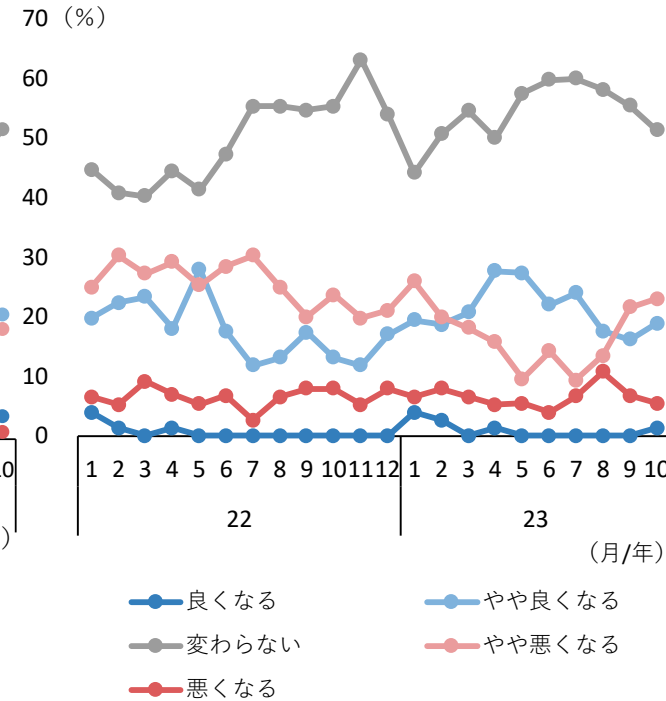
現状判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



先行き判断理由の概要(家計動向関連)

- **新型コロナ収束後の年末年始の消費に期待する声が散見される。インバウンドへの期待もみられる。一方で物価上昇による消費抑制が懸念されている。**

◎	旅行代理店（営業担当）	・来月も今月以上の120件に迫る団体旅行の案件があり、更に多忙を極める月になりそうである。しばらくは景気の良い状態が続くと推測する。年末年始も、過去3年間自粛したりバウンドで旅行に出掛ける人が増加する。
○	百貨店（経理担当）	・物価高の問題はあるが、それ以上に客の消費マインドは上がっている。
○	コンビニ（商品企画担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響がない年末年始を迎えることから、瞬間的なものであるが景気は回復すると見込む。
○	高級レストラン（経営企画）	・物価高により節約傾向は続くが、新型コロナウイルス感染症収束後初めての年末年始に期待したい。
□	百貨店（総務担当）	・今年は暖冬との長期予報で、冬物衣料や雑貨の販売では苦戦が想定される。各種商品値上げの影響により値上げ分は売上増加となるものの、消費者の懐具合には限りがあり、節約志向が高まりを見せつつある。所得減税も今の様子では即効性はなく、売上を下支えする要素にはならないが、企業の業績回復に伴う冬のボーナス消費に期待したい。
□	百貨店（販売促進担当）	・国内消費は値上げの影響が多少あるものの、インバウンドによる売上が更に増加するため、現状と余り変わらないと予測する。
□	スーパー（店員）	・全ての物の原価が上がっているなかで、商品販売数はなかなか上向かず、最低限の商品しか動かない状況が続いている。まだ景気は良くならない。
□	乗用車販売店（経営者）	・現状から大きく変わらないと考えるが、物価高で生活費の支出が増えていることで、客には節約傾向が見受けられる。物価高が今後どのように推移するか注視したい。
□	旅行代理店（経営者）	・飲食料品やガソリン代の値上げの影響などで、旅行先も安近短になっている。比較的旅行に支出できる高齢者やインバウンドの多い地区とそれ以外で差が出てきそうである。
▲	スーパー（店長）	・値上げによる1品単価の上昇により、買上点数の減少傾向には歯止めがかからない。
▲	乗用車販売店（営業担当）	・外食や遊びに行く人が増える一方で、ガソリンなど燃料価格の高騰や食料品の値上がりによって、余裕がないという人が増えている。

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

先行き判断理由の概要(企業動向・雇用関連)

● 受注回復を見込む声がある一方、原材料価格上昇による収益悪化、人手不足が懸念されている。

○	窯業・土石製品製造業 (社員)	・電子部品関係の受注がいきなりストップして1年以上になるが、ようやく客の在庫がさばけてきたので、3か月後には回復を見込む。
○	一般機械器具製造業 (営業担当)	・客には特に北米自動車向けの設備投資意欲に衰えはみられないため、来月以降は引き合い、受注共に増加する見込みである。
□	金属製品製造業(従業員)	・仕事量の問題はないが、高騰した原材料費が利益を圧迫し、価格転嫁も十分できていないため、収益面では厳しい状態が続く。
□	輸送業(エリア担当)	・荷主に対する運賃値上げの交渉は、運賃に対する社会的認識が不足するなかで敬遠、拒否されている。運送業界がコスト高を吸収して価格に転嫁できない構造が続き、物価高騰のしわ寄せは物流費にきている。景気が良くなるとみられる一方で、運送業界が抑圧されている。
□	職業安定所(所長)	・人手不足は続いており、物価高騰や原材料不足も事業活動に影響を及ぼしている。依然として事業活動の回復には業種・業態による差があり、この状態が定着しつつある。
□	職業安定所(職員)	・今後も物価高が続き、より一層商品への価格転嫁が進んでいく。また、会社存続のための利益確保が課題となる。人手不足でありながら、人件費に掛けられる資金が不足している。
▲	食料品製造業(営業担当)	・物価の上昇により、販売量が大きく減っている。
▲	金属製品製造業(経営者)	・市場からの引き合いが減少している。客先の人手不足などの影響もあり仕事が進まず、引き続き数量面での減少が予想される。
▲	不動産業(開発担当)	・ゼネコンの受注量が増えていると聞いており、今後工事費上昇の懸念がある。
▲	公認会計士	・少しずつ需要は戻ってきているが、深刻な人手不足により機会損失が発生するリスクが高まっている。特に年末にかけて忙しくなる飲食業界は、賃上げを行って求人をしていても人が集まらないのが実情である。採用コストが高まることで既存の人件費上昇にもつながり、今後の傾向としてはやや悪くなると予想する。

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー